



夏休みになつても家に帰れない障害者

## 施設で進む保護者の高齢化

長生きを単純に喜べない現実もあります

八月は夏休みを利用して、帰省や旅行のシーズンです。

帰省客で高速道路が渋滞して

いるとか、新幹線の乗車率が何%とか盛んに報道されています。

このことは、障害者が入所している施設でも同じで

す。いや、正確にいえば「同じでした」というべきです。

どうも近ごろは施設の様子が

変わつてきているようなので

す。今年はとくにそれを強く

感じました。

私の息子が都内の施設に入

つたのは二十年前のことです

が、そのころ息子を迎えて施

設に行くと、ほとんどの利用

者が帰省していて、広い施設

に人影が少なくガランとして

気持ちが悪いほどでした。と

ころが今年行くと、普段と同

じくらい人がいて、夏休みと

いう感じがしないのです。こ

のことで職員に聞いてみると

「保護者がみんな高齢化して

夏休みでも家に帰れる利用者

て保護者会には出席して、たまには顔を見たいと思ってむりして出てきました。いま二人でいつも話しているのは、人の子の最後を見届けたい。そして安心して死にたいという

ことです」

「大丈夫ですよ、ここはいにきてください」といいます。しかし私も六十八ですか

ら、年令では一人前の高齢者

です。それでも一番若い方といふことは、他の保護者の年

い方ですから、今まで迎え

にきてください」といいます。しかし私も六十八ですか

と、半分は自分で言い聞かせ

心配することはないですよ」

二ヵ月に一度の保護者会に

出ると、参加者が以前より少

なくなつてゐることはもちろ

んですが、車いすに乗つて職

員に押してもらひながら会場

に来る保護者さえいます。施

設長は「保護者用の施設を作りたい」とまじめな顔でいつ

ています。

七月の保護者会のあと、も

う顔なじみになつたご夫妻と

お茶をのみながら話す機会が

ありました。「家では毎日、

ヘルパーさんに来てもらつて

なんとかやつてあるあります。

なので、もうあの子を家につ

れて帰るのは無理です。せめ

て保護者会には出席して、たまには顔を見たいと思ってむりして出てきました。いま二人でいつも話しているのは、人の子の最後を見届けたい。そして安心して死にたいという

ことです」

ようになつて、それらの施設は成人施設に衣替えしてきました。

長い歴史のある施設の理事長から、こんな話を聞いたことがあります。「昔、うちが児童施設だったころ、障害者が十八歳になると卒業しなければなりません。十八歳になつたお子さんを親に引き取つてもらうとき、おかあさん、

これまでなんともいえない暗い気持ちになります。私は歳からいつてあと二十年くらい

は大丈夫だらうと自分で勝手に思つてますが、八十歳台半ばのお二人には差し迫つた

問題なのでしょう。

保護者が高齢化する悩みは古い施設に共通のものです。

これは障害ある利用者が長生きできない、短命といふ

ことです。昔は、重い知的障害を持つて生まれた人は、

生きる第一線で活躍した有名な精神医学者が百名以上も執筆者

版になつてますが当時の定価で一万円ですから大変高価なものです。回収した古本の中から見付けました。そのこ

の第一線で活躍した有名な精神医学者として名を列ねていて、権威ある事典です。その中のダウ

ー第一線で活躍した有名な精神医学者たるところは、もうお迎えも近い

度もあります。しかし二十年前

にぐらべて、めつきり衰えが

目立つ老ご夫妻に、新しい制

度の意味や内容を理解しても

れています。当時とすれば、これが医学界でも定説だつたようです。

この四十年間での、医学や福祉の進歩は目覚ましいものがあります。昔の常識はまつたく通用しなくなつたことがたくさんあります。いまあち

こちの施設へいつても、ダウ

ン症で五十歳や六十歳になる

人はいくらでもいます。障害者だから短命と思う人もいな

かたがないとあきらめています。

しかつたけど、うちの子はしまったがいいと喜んでいました。

うれしそうに喜んでいるお子さんを見ると本当にうらやましかつたけど、うちの子はしまったがいいとあきらめています。

今日までうちで育ててきただけだから、がんばつてください

いよといつて送り出したものでした

いまから四十年前に刊行された精神医学事典という分厚い事典があります。すでに絶版になつてますが当時の定

価で一万円ですから大変高価なものです。回収した古本の中から見付けました。そのこ

の第一線で活躍した有名な精神医学者たるところは、もうお迎えも近い

度もあります。しかし二十年前

にぐらべて、めつきり衰えが

目立つ老ご夫妻に、新しい制

度の意味や内容を理解してもうに引きました。こんなこと

は、六十年近く育ててきて初めて私を立たせようとするよ

うに思つて心配しているの

だけです。私のことがわかつていて心配しているの

だとうれしくて。もし

かすると、もうお迎えも近い

から、私の責任です。親がい

らうことは容易なことではありません。「私が生んだ子だから、神様が仏様が、最後に

一番うれしいごほうびをくれたのかしら……」といつてお

二人はハンカチを出して目に

当てました。歳を取られたお

二人の姿が哀れで胸がつまりました。